

第1号議案（1）

令和5年度 事業活動報告

（令和5年4月1日～令和6年3月31日）

令和5年度は、高槻里山ネットワーク設立（2002年9月28日）から21年目の活動となりました。令和5年度の事業活動方針に基づき、会員間のコミュニケーションを重視しながら、全員が“安全第一・楽しくをモットーに”楽しく高槻の里山の保全活動を推進することを心掛けて実施した結果、多様な活動に多くの会員に参加頂きました。

活動は、会員各位のご協力に加え、関係各機関にご指導等をいただき、4年前から新型コロナウイルス感染対策のため活動日数が減少していましたが、本来の活発な活動に戻ってまいりました。

また、今年度は私たちの長年の活動が評価され高槻市長より「市制施行80周年の感謝状」及びNEXCO西日本関西支社長より「感謝状」を頂きました。

〈新たに実施した活動他〉

- （1）尼堤竹林：高槻市尼堤地区の個人所有竹林の竹林整備について「所有竹林における竹林整備の活動に関する覚書」（令和5年4月）を交わしました。
- （2）萩谷公園は、管理団体が「高槻みらい創造パートナーズ」に変更になり市役所も加わり三者による新たに「萩谷総合公園における森林整備の活動に関する覚書」（令和5年4月）を交わしました。
- （3）高槻阪急スクエア1F木育広場でパネル展示と木育イベントに参加し、木工ワークショップを実施しました。
- （4）早稲田摂陵高校の体験学習支援（竹林整備・竹細工）を行いました。
- （5）ヤマモモ会草木染めでは、新たな藍の品種栽培と本格的な藍染めの挑戦を行いました。（沈殿藍染め・すくもの染）
- （6）高槻市山間部においてクマ出没情報(10月)があり役員に対策用鈴を配布しました。
- （7）今年の竹林のタケノコは不作でした。



（たかつきけやきパークで木工支援）
高槻阪急スクエア1F

（摂陵高校の体験学習支援）



1. 活動実施状況について

令和5年度は、定例・臨時施業及びイベントなどを含め、活動延べ日数は92日、参加人数1,548人でした。

ここ数年、新型コロナウイルス感染対策のため活動日数が減少していましたが今年度は本来の活発な活動に戻りました。

活動延日数と参加人数の経緯

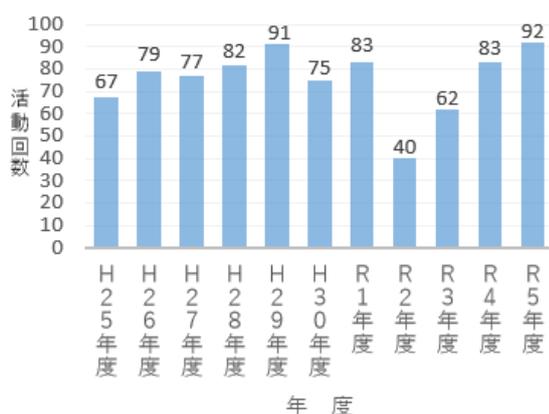
区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
活動延日数	83日(8日増)	40日(43日減)	62日(22日増)	83日(21日増)	92日(10日減)
参加人数	1,557人(252人増)	784人(773人減)	914人(130人増)	1,328人(414人増)	1,548人(220人減)

注：（ ）内は前年度との増減比較

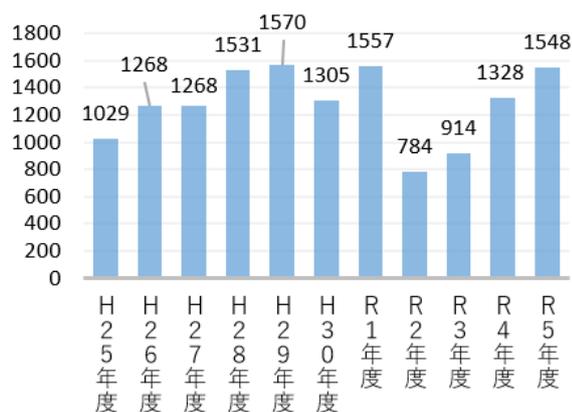
(1) 施業場所別・イベント等の活動状況

区分	施業場所・イベント名称	令和5年度		備考
		活動日数	参加人数	
施業	高槻楊梅山ふれあいの森	22日	389人	楊梅山
	上牧竹林	21日	383人	上牧
	一乗寺(竹林)	12日	217人	一乗寺
	萩谷公園	9日	172人	萩谷総合公園
	尼堤竹林	5日	38人	尼堤竹林
	草木染め作品づくり(マツキ会)	12日	163人	磐手公民館等
イベント	農林業祭参加(準備含)	2日	54人	嶋上群衙跡地
	七夕用笹配り	1日	27人	JR高槻駅前
	IT・クリーン、共同フェア他	4日	37人	市役所内
	神峯山寺水路清掃・共創の森	3日	51人	神峰山寺
文化活動	ハイキング	1日	17人	石清水八幡宮
令和5年4月1日～令和6年3月31日		92日	1,548人	

活動回数(回)



参加者数(人)



(2) 主な施業内容

① 楊梅山

林野庁近畿中国森林管理局京都大阪森林管理事務所と楊梅山国有林の「ふれあいの森における森林整備等の活動に関する協定書」に基づく5か年計画の4年目に係る協議のうえ計画どおりに施業を行い、各広場・各コースの整備保全が実行されました。

5年前の台風21号被害により被害をうけた「イノシシ谷コース」の風倒木処理を京都大阪森林管理事務所が実施しました。しかし、倒木の持ち出し処理が行えず、当分の間危険区域と定め、立札により周知を図りました。

- ・ 展望コース西斜面の整備
- ・ イノシシ谷コースの一般の人へ」の進入禁止措置対応
- ・ せせらぎコースの風倒木等処理
- ・ クスノキ広場南側斜面「ドングリ育成林」としての整備・育成（鹿防止ネットの補強）
- ・ ヤマモモ広場のヤマザクラ植林地の保全（鹿防止ネットの補強）
- ・ コバノミツバツツジ群生地 of 保全
- ・ アカマツ再生林の保全
- ・ タマミズキ展示林の整備
- ・ 各コース・散策路の整備
- ・ 山野草園の維持管理
- ・ 森林環境教室（2回）の実施



(イノシシ谷コース)



(環境教室)



(案内看板更新)

② 上牧竹林

西日本高速道路株式会社関西支社京都高速道路事務所と「ボランティアによる竹林等の維持管理に関する確認書」に基づき施業を実施しました。今年度は例年に比べてタケノコの収穫量が少なく、イノシシの進入による竹林の荒廃が見られました。その為、イノシシ進入防止柵の更新を大規模に行いました。また、NEXCOに枯損竹材の粉碎作業を依頼し、10日間程度の日程で実施し、粉碎した竹チップを周辺に蒔いて頂きました。



(整備された竹林)



(早稲田摂陵高校環境学習支援)

(市民小学生家族タケノコ掘り)



③ 一乗寺

日蓮宗昌林山一乗寺との「一乗寺竹林における竹林整備に関する覚書」に基づき住職と協議のうえ計画どおり施業を実施しました。

従来のA～F地区は新名神高速道路工事エリアとなり、新規場所として東側の竹林（東101地区）が施業の中心となりました。

園児タケノコ掘り体験の支援は悪天候のため中止となりましたが会員が掘ったタケノコを3園に持参し喜ばれました。



(東101竹林整備・土持)

④ 尼堤竹林

高槻市尼堤地区の個人所有竹林（0.27ha）の竹林整備について「所有竹林における竹林整備の活動に関する覚書」（令和5年4月）を交わし、今年度より正式に竹林整備の施業を進めました。



（竹林整備状況）

⑤ 萩谷炭窯

高槻市発行の「都市公園内施設設置許可書」に基づき施業を実施しました。また、管理団体が「みどりとスポーツ振興事業団」から「高槻みらい創造パートナーズ」に変更になり市役所も加わり新たに「萩谷総合公園における森林整備の活動に関する覚書」（令和5年4月）を交わし実施しました。

以前の借用地区を「創作の森A」と呼び今年度から炭窯の上の裏山部分を「創作の森B」とし、整備を進めました。また、「創作の森A」南側の炭焼き小屋倉庫の使用許可を頂き資材置き場として「森のプラットフォーム高槻」と共同使用することとなりました。

竹炭窯の1号窯・2号窯ともに2回の竹炭焼きを実施いたしました。

更新した2号窯（ステンレスドラム缶製）は初火入れとなりました。

農林業祭出展のつる籠作り実習や年末の正月飾りミニ門松作りの基地として活用しました。

萩谷公園森づくりボランティア活動に2回参加いたしました。



（竹炭窯火入れ）



（正月飾りミニ門松作り）

⑥ ヤマモモ会

磐手公民館を拠点として、草木染め作品づくりと展示販売を行いました。今年の藍染は従来の「ヤマモモ」種に加えて「ちぢみ」と「千本」種を新たに栽培し、「生藍染め」に加えて「沈殿藍染め」及び「すくも」による本格的な藍染めに挑戦しました。

会員には、草木染めによる大判バンダナを配布（42枚）しました。詳細は「ヤマモモ会活動報告」を参照

製品の出展・販売は共同フェスタ、食の文化祭アートの森、農林業祭、エコ・クリーンフェスタで行いました。

ヤマモモ会主催で石清水八幡宮にハイキングに行き竹細工の製作・展示の説明を受けました。（15名参加）



（草木染めのミテミテショー）



（草木染め）



（ハイキング 石清水八幡宮）



（竹細工の展示）

（3）施業の安全対策

本会の活動は 全員が“安全第一・楽しくをモットー”を基本とした安全活動の取り組みに努めました。新たな取り組みとして①施業前のラジオ体操、②役員の「クマ避け鈴」の携行を行いました。

詳細「安全活動の取り組み状況」を参照

(4) その他活動及びイベントの参加

- ① タケノコ掘り支援活動：上牧竹林で市民小学生家族対象行いました。
一乗寺での3園児招待の支援は雨天のため中止となりました。
- ② 農林業祭で作品の展示販売：草木染め、干支などの竹細工、つる製品、ミニツリー、竹炭などを販売しました。
- ③ 神峰山寺周辺の清掃
- ④ JR高槻駅前での七夕笹配り
- ⑤ ハイキング（石清水八幡宮）を実施
- ⑥ 高槻市市民共創の森作り（植林）への参加
- ⑦ 外部主催のイベント等への参加
 - ・高槻市主催の環境展及びエコ&クリーンフェスタに参加(製品の出展販売及び工作を実施)
 - ・高槻市市民公益活動サポートセンター主催のたかつきNPO協働フェスタに参加（製品の出展販売及び工作を実施）



(JR高槻駅前での七夕笹配り)



(たかつきエコ&クリーンフェスタ)



(農林業祭)



(神峰山寺周辺の清掃)



(市民小学生家族タケノコ掘り)

2. 助成金

本会の活動運営に当たって下記の組織と協議し助成を頂きました。

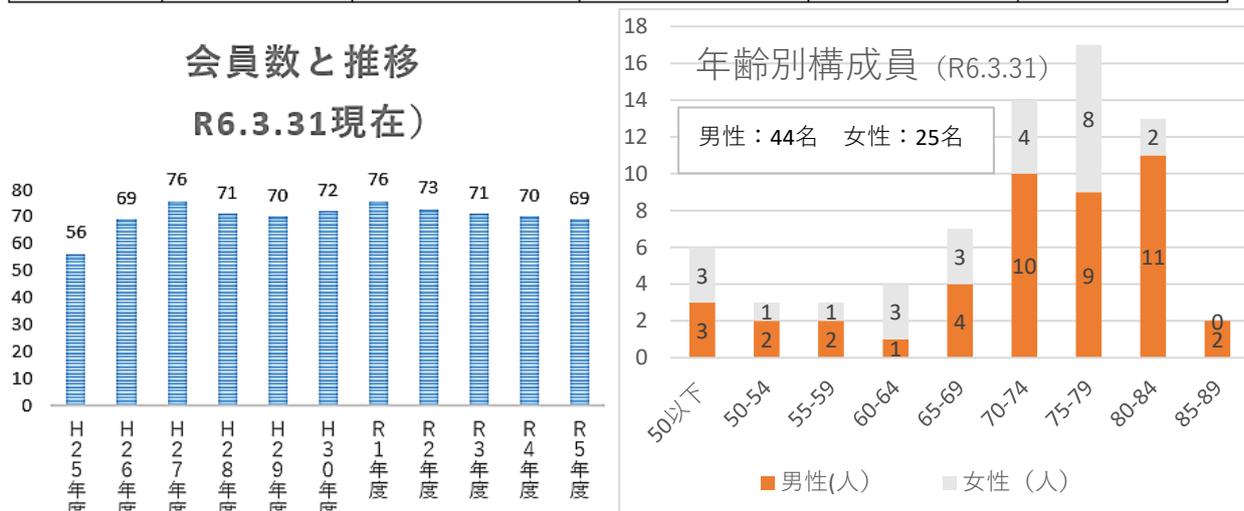
- (1) 林野庁・大阪さとり地域協議会（3年計画の初年度）
- (2) 高槻市社会福祉協議会
- (3) イオン幸せの黄色いレシートキャンペーン

3. 組織と運営

- (1) 令和6年3月末現在の会員数は、69名です（女性25名、男性44名）
平均年齢70.3歳と昨年より若干若返りました。

会員数の推移

区分	令和元年度	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
総会員数	76人(4人増)	73人(3人減)	71人(2名減)	70人(1名減)	69人(1名減)
入会・退会数	入会4人	入会3人、退会6人	入会4人、退会6人	入会10人、退会11人	入会8人、退会9人



- (2) 令和5年度には、役員会を中心に次のような施策・活動を実施しました。

- ① 令和5年度の総会(第22回通常総会)を5月27日(土)に開催しました。
(会員数76名、出席者42名、委任状提出者19名)第1号議案、第2号議案、第3号議案とも賛成多数で承認されました。
- ② 役員会は会長以下役員18名で定例役員会(毎月)を開催し、活動方針・内容等の審議、運営状況の確認などを行い円滑な運営に努めました。
多忙な業務運営を効率的に進めるため会長業務の役割分担、さとり協議会交付金手続き等について役員による検討チームを編成し対応しました。施業担当役員は、定例役員会開始前に集合し、施業内容・日程・作業分担について事前に協議・調整して頂きました。
- ③ 会員フリートーキング(ミーティング)楊梅山施業時(令和6年1月8日)に実施し、会員からご意見を頂き、役員とミーティングを致しました。ご意見をもとに令和6年度の施業等に反映させました。
- ④ 関係機関との協議のほか、恒例の年始挨拶回り等、関係機関との連携協力に配慮した円滑な運営に努力致しました。

以上、会員のみなさまの積極的な活動に感謝いたします。 以上